

悠久

第 46 号



天津：古文化街

本号の内容

- | | | | |
|---------------------------------|---------------------|-------|---------|
| ① 岡山県立大学のグローバル化について | 岡 山 県 立 大 学 | 学 長 辻 | 英 明 |
| ② 発展科目「中国語入門 ～言葉を通してアジアを見る～」 | ノートルダム清心学園 清心女子高等学校 | 教 頭 森 | 雅 子 |
| ③ STUDENT EXCHANGE活動がもたらした人生の転機 | 福 岡 大 学（煙台大学 留学中） | 小 野 | 沙也香 |
| ④ 中国・大連での日本語弁論大会の開催 | 岡山科学技術専門学校 | 国際教育局 | 井 上 伸 一 |

● *March*
2015

岡山県立大学のグローバル化について



岡山県立大学 学長

明 英 辻

岡山県立大学は、平成五年四月に開学し、現在保健福祉学部、情報工学部ならびにデザイン学部の三学部から構成されています。平成十九年四月には独立法人化して自主的・自律的な管理運営を行っています。

私たちは、長い農耕社会および工業社会の時代を経て、知識がさらに新しい知識を生み出し、それが原動力となつて社会が発展する時代に生きています。また、わが国では、近年、深刻な少子・超高齢化が急速に進展しています。このように大きく変化している社会では、主体性、協働性ならびに創造力を有した人材の育成が求められています。

私は平成二十五年四月に学長に就任しましたが三つの基本方針―共通教育における教養教育の充実、国際交流を通してグローバル教育の推進、戦略的な地域貢献活動の推進―を策定して、大学の改革を行っているところであります。

学長就任以前の大学の国際交流は国際交流の必要性を認識している教員の活動に依存して、いました。これまで、本学は英国のセント・アンドリュース大学およびバンガー大学、韓国の又松大学校、中国の東北師範大学、延辺大学、四川大学ならびに南昌大学の7大学と学術交流協定を締結しました。このうち、バンガー大学、又松大学校、四川大学、南昌大学とは、共同研究、研究セミナー・国際会議、講演、講義、語学・文化研修を通じて教員および学生間の交流が持続的に行われてきました。学長就任後、本学のグローバル化を全学的に推進するため、昨年十月にグローバル化を推進する国際交流センターを設置し、教員の主体的な取り組みについて財政面を含む様々な支援を行うとともに、国際交流に関連する事業を企画・実施してきました。昨年、新たに豪州アデレード大学およびインドネシアのハサヌディン大学と締結し、さらに、本年四月および九月には、それぞれネパールのトリブバン大学および台湾の雲林科学技術大学と締結する予定に

しています。

本学の国際交流に関する主な具体的な取り組みとしては、英語の語学・文化研修をバンガー大学およびアデレード大学で、韓国語の語学・文化研修は又松大学校で、そして中国語の語学・文化研修は四川大学で実施しています。食品・栄養に関する国際会議は、又松大学校、四川大学、南昌大学ならびに本学の四大学が毎年一回順番にそれぞれの大学で開催しています。本学における日本語・文化研修は、又松大学校、南海大学（韓国）、南昌大学から受け入れて実施しています。最近、情報工学部は上海交通大学の自動制御学科との交流を深め、本年五月には当該学科と情報工学部との間で学術交流協定を締結いたします。

本年四月より、教養科目群、語学・国際群および社会連携群からなる共通教育の新カリキュラムが始まります。このうち、国際群はグローバル教育を推進するカリキュラムです。この群には、現在語学・文化研修科目および韓国食文化学を設けています。韓国食文化学は学生が又松大学校において講義と韓国料理実習を英語で受講する科目です。その他、現在、海外研修先として地中海沿岸国、香港、アデレードなど幾つかのスタディツアーを実施していますが、これらは新たに科目化いたします。今後同様な海外スタディツアーを企画してこの国際群を充実します。本学の学生はこの国際群の科目を受講し、在学中に少なくとも一度は海外経験を積み、異文化理解力、語学力ならびに国際的視野を身につけていただきたいと考えています。

本学の国際化に関する課題は、本学には留学生が少ないことです。留学生の存在は、大学の国際化には最も効果的ですので、本学は留学生の受け入れ環境および体制を整備し、海外学術交流校を中心にして留学生の受け入れを促進いたします。

発展科目「中国語入門」

～言葉を通してアジアを見る～

ノートルダム清心学園 清心女子高等学校

教頭 森 雅 子

清心女子高等学校の「発展科目」、講座「中国語入門～アジアを通して世界を見る～」は平成二十七年年度で開講十七年目を迎えます。「発展科目」は21世紀に向けて特色ある教育を実施するために本校が立ち上げたプロジェクトチームから生まれ、分野や教科を横断した内容と、協働学習やプレゼンテーションなど今日のアクティヴ・ラーニングを取り入れた学校設定科目です。高校二年生が複数の講座から自らの興味・関心に応じて選択履修するもので、平成十五年度からは本校の「総合的な学習の時間」として位置づけられています。二十七年年度の開講講座は「Women's Studies」「高大連携 知って役立つ医療福祉」「奉仕」ともに生きる～」[High School Musical]「高大連携 ハイレベル英語」「数理科学課題研究」「物質科学課題研究」そして「中国語入門」です。さまざまな講座が何年かで入れ替わる中、女子校として特色のある「Women's Studies」とアジアに視点をおいた「中国語入門」は十七年間継続して実施されています。今年度の受講生は高二生二十名と高三のノートルダム清心女子大学特別進学クラスの名

かから十名、合わせて三十名となり、二人の教員で担当することになりました。

「中国語入門」は、将来にわたって日本がアジアの一員としてアジアの国々と共に平和に歩んでいくためには、若い世代の人々が隣国中国や、その他のアジアの国々を理解し、親しみを持つことが大切であり、従来の「歴史」や「地理」からだけではなく、「言葉」を通して高等学校時代に学ぶ意義が深いと考え開設しました。当時はまだ、グローバルという言葉は今日のように使われてはいませんが、将来のグローバル人材に必要なアジアの言葉を学ぶ機会が日本の高校生にはほとんどなかったことに着目したので、そして、講座の具体的な柱を「中国語の発音の基礎と簡単な会話文の習得」と「中国を中心とするアジアの歴史や社会・文化の理解」の二本に置き、言葉の学習と異文化理解をめざしました。

「言葉」の学び方に関しては、説明の時間をなるべく短くして他者の前での発表やグループ単位で創造的に取り組める活動を取り入れていま

す。(写真1 会話練習) 学習のまとめとして「ある日の学園生活」と題する創作DVD(学園生活のひとこまを短劇にして中国語で演じる)作製を行います。人前で自己表現する喜びやグループ活動を通してお互いを認め合う態度を大切にしていきたいと思っています。また「言葉」の学習を通して国際理解の基礎となる相手を尊重する心、異文化を受け入れる姿勢を育てていきたいと考えています。(写真2 ある日の学園生活)

「アジアの歴史や社会・文化の理解」ではDVD教材の利用や新聞記事のスクラップから興味・関心を掘り起こして、テーマ設定をおこない



写真1 会話練習 你喝什么？



写真2 ある日の学園生活

夏休みを利用してアジア研究のレポートを作成しています。さらに、そのレポートをもとに学年のまとめとしてプレゼンテーションを行い総合的な力をつけるように図ります。(写真3 中国の格差問題) DVD教材の一例としてNHKドラマ「大地の子」を視聴し、さらに残留孤児の問題を扱った番組で理解を深めます。最初の視聴後に生徒に理解できなかったことを書き出させ、生徒の「問い」からレポートのテーマを見つける方法を身につけることを目指しています。その中から近代の歴史、日中の関係、なぜ原作者に取材が許されたのかということなど、さまざまな歴史を学ぶ視点を掘り起こすことができます。



写真3 中国の格差問題

週二時間、年間二単位の授業のほかに、放課後の活動として、中国語弁論大会への参加や中国映画の鑑賞、神戸南京町神戸華僑博物館見学など、年度によりさまざまな取り組みをおこなってきました。中国語検定試験への挑戦では学習開始後半年で準四級に取り組み、二十六年度は四名が合格しました。また、受講生の中から岡山県日中教育交流協議会の『STUDENT EXCHANGE in 大連』に二年連続で参加させていただきました。

卒業生は、さらなる中国語の上達をめざして天津の南開大学の研修に参

加し、高校三年生の一名は大連外国語大学への進学を目標に中国語の学習を継続しています。

日本の高校教育は現在、大きな変革を迫られています。長く続いた大学入試センター試験にかわり、新しい大学入試の方法を実施することが決定されています。具体的な内容はまだまだこれからの十分な検討が待たれていますが、21世紀型スキルと呼ばれる教養、学際的・分野横断的な思考力、問題解決力、リーダーシップ、チームワーク力、コミュニケーション力、コラボレーション力などが求められることとなるでしょう。これらは、現在日本がその養成を急務としてスーパーグローバル大学やスーパーグローバルハイスクールを指定して取り組むグローバル人材に求められる力の基盤ともなるものです。このような時代の要請をうけて、清心女子高等学校の「中国語入門」の講座も刷新することが求められています。具体的には「アジア研究のレポート」を「課題研究」にまで深めていくことをめざしています。主に個人学習であったレポート作成を、テーマに即した史資料を収集することから始め、グループでの

討論を主軸として個人学習、グループ学習、全体学習を組み合わせ、より協働的で思考力の深まるものとしていきたいと考えます。

「中国語入門」講座が実施されてきた十七年の間には日中の関係は良いときもまた悪いときもありました。そして、今までになく多くの中国人が日本を訪れるようになった現在も両国間には厳しい課題があります。しかし、どのように世界がグローバル化しようとも日中は「一衣帯水」の深いかわりがあり、若い世代がお互いを理解し、尊重する態度を身につけることが平和で持続可能な世界を築くために大切なことです。自分自身が歴史を学ぶ基本を教えられた「前事不忘、后事之師」という姿勢を若い世代に育むことができるよう努力を続けたいと思います。



STUDENT EXCHANGE活動が もたらした人生の転機

福岡大学 煙台大学(留学中)

小 野 沙也香

私が初めて中国という国に向き合ったのは高校一年生の夏でした。友達が「STUDENT EXCHANGE 大連」の広告を見つけてきて、一緒に行くかと私を誘ったのがきっかけでした。当時の私にとって中国は、日本との関係が良くない国だという印象であり、しばしばニュースで悪く言われていたために少し偏見もあったと思います。そのため友達から誘われているのに交流活動への参加を渋っていました。高校の英語科の先生が私に「こんな機会は滅多にないし、案外楽しいかもしれないよ。気楽に行ってごらんよ」と助言してくださり、私は参加を決意しました。

面接に合格し、オリエンテーションも済ませ、いよいよ中国・大連を訪れました。大連では大連第一中学の同年代の学生と文化交流活動を行い、夜にはホームステイも経験しました。ホストファミリーはとても優しく親切で、餃子づくりなど私がしたことのないようなことをたくさん体験させてくださり、中国の家庭の温かさ感じました。私は中国語が全く話せませんでした。パートナーは日本語が上手だったので交流に不便なところはなく、本当に助かりました。大連での交流の後、北京に移動し、そこでは世界遺産である故宫博物院や万里の長城など観光地を訪

れ、歴史的文化的遺産をたくさん見ました。歴史の長さと言いますか、とにかく中国の歴史のスケールの大きさを初めて目の当たりにし、とても驚いたことを覚えています。

中国に対してもともと抱いていた概念が少しずつ変化して日本に帰国し活動を終えましたが、再び秋には大連第一中学から学生を日本へ招聘する活動がありました。今度は私たち日本人学生側がホストとなり中国人学生たちを迎え入れました。その際の私のパートナーは日本語は話せず、私たちは英語で会話をしました。私は英語も流暢ではなかったのですが、会話に詰まることもしばしばありました。それは私にとってとても悔しくてもどかしい気持ちで、このとき私は初めて「中国語を話せるようになりたい」と思いました。

高校二年生の夏も私はSTUDENT EXCHANGEの活動参加を志願し、前例のない二年連続参加をさせていただきました。一年目とは違い、少し心に余裕もあったので、前回の参加時には見つけられなかった中国の成長スピードなどの状況を見ることが出来ました。

この年、私は岡山県主催の韓国慶尚南道への訪問団の活動にも参加し、韓国語にも興味を持つようになりました。

中国語や韓国語を学びたいと思い、

そのために進路を理系から文系に変え、大学も言語学習の環境や交換留学制度が十分に整っている点から福岡大学人文学部東アジア地域言語学科を志望するようになりました。

志望する大学に無事に合格し、高校三年間の受験生活を終えたとき、そして福岡大学へ入学したときに、私は自分の目標に少し近づいているという実感で、新しい生活の始まりに胸が躍りました。慣れない土地での一人暮らしは苦労もありましたが、それよりも、毎日自分のやりたい勉強が存分にできる環境が非常に嬉しかったです。私は高校生の時まで勉強嫌いでしたが、大学に入ってから勉強が楽しくて仕方ありませんでした。私の学科では中国語と韓国語を同時に勉強します。先生の言葉を一つ残らず吸収しよう



と必死に講義を聞き、ノートを取り、家でもひたすらに教科書を読んだり、疲れたときは中国や韓国のテレビドラマを見ながら言語に触れていました。また、福岡大学には中国や韓国からの留学生が大変多く在籍しており、留学生たちとの交流は私にとってとても楽しい時間でした。

一年生の夏、二年生の夏休みはそれぞれ韓国の釜慶大、蔚山大、蔚山大学での短期語学研修に参加し、韓国語を徹底的に勉強しました。二年次からは専攻を中国語とし、中国留学への準備も少しずつ始めながら、中国語検定を受験したり、学科で開催されるスピーチコンテストに参加したりと中国語に触れる機会を増やしました。

スピーチコンテストは一年生の時に参加したのですが、入賞できず本当に辛く悔しかったので、二年生の時にも迷うことなく出場を決意し、二か月間みっちり練習を重ね、ついに最優秀賞を勝ち取ることが出来ました。だから私にとってスピーチコンテストは特に思い入れの深い行事です。

三年次に中国へ留学することは入学前から決めていたことでしたので、留学自体への抵抗感はありませんでした。しかし、どの大学へ行くかを決断するには多くの時間を費やしました。留学経験のある学科の

先輩方一人一人から話を聞き、それぞれの大学の長所短所などを教えて頂いたり、中国人留学生の友達からの生活面のアドバイスをもらい、生方から勉強面で私に適した大学を薦めて頂き、私は山東省にある烟台大学を選びました。ここ烟台は距離的に韓国から近いので韓国人が多くいて、日本人は少ないので会話の際には何が何でも中国語を使わざるを得ず、さらに中国では比較的に空気が綺麗な都市です。韓国語も同時に勉強している私にはピッタリの大学だと思いました。ですので私は烟台大学への交換留学を希望しました。

実際に交換留学を始めて三週間が経ちましたが、生活はとても順調です。大学の先生方、寮の職員さん、食堂の職員さん、皆さんいつも親切で大変良くしてくれます。私のつたない中国語を根気強くゆっくり聞いてくださり、すれ違えば必ず笑顔で挨拶してくださり、勉強面ではもちろん、生活面でも全面的にサポートしてくださいます。少し気が早いですが、ここでの一年間の交換留学は充実して終えられるような気がします。もちろん私自身もこれから相当な努力しなければいけません……

交流活動は人を大きく成長させると思います。私は交流活動の中から

言語学という進路を見つけましたが、元々この進路を歩もうと決意した始まりは中国人や韓国人の友人に興味を持ったことです。私は日本人として交流活動に参加し、様々な国々の学生と友達になりますが、その時にいつも感じることはありません。それは「友達に国籍は関係ない」ということです。私たちはともに食事をして、たまにはお酒を飲んで、冗談を言って笑います。その時に国の差を感じることはありません。誰かがギャグを言えばみんな同じように面白いと感じ、大きく笑います。感動する場面があればみんな同じように感極まって涙を流します。一緒に活動して達成感があれば抱き合って喜びます。「国」という大きな括りで見ると私たちは遠く離れている時があります。しかし私たちは「学生」という面ではいつも同じで、そこに差はないのです。このように感じるようになったことは私の二十年の人生の中ではとても大きな収穫であると思います。

私がこのような学生生活を送るきっかけとなったのはすべてSTUDENT EXCHANGEの活動のおかげであると思います。あの交流活動に参加していなければ今の私は百%ありません。人生初めて訪れた転機であり、とても不思議な縁だと思っています。友達が活動に誘ってくれて、先生が参

加を決意する後押しをしてくださり、両親が支持してくれて、交流活動に参加して、これから先ずっと仲良しの友人を得て、私は本当に恵まれていると思います。今でもいつも応援してくださる心強い味方が周りに多くいるので、安心して勉強に向き合うことが出来ると思います。

今の私の目標は、中国語と韓国語を習得して、二〇二〇年の東京オリンピックに何らか関係する仕事をすることです。通訳官なのか、ツアーコンダクターなのかまだ分かりませんが、とにかくそれまでは直向きに自分の言語能力を向上させる努力をしたいと思っています。

私を支えて下さる周りの方々への感謝の心を持ち、日々謙虚に勉学に努め、将来必ず目標を達成したいと思っています。



中国・大連での日本語弁論大会の開催

岡山科学技術専門学校

国際教育局 井 上 伸 一



1人が日本語、1人は中国語で上手に司会しました。

岡山科学技術専門学校は、創設以来産業界のニーズに応え、「技術教育を通しての人間教育」を教育理念に、専門的な知識・技術はもちろん、柔軟な創造力、豊かな人間性を併せ持った人材の育成を目指し、日々教育内容の改善・充実を続けています。本校は、工業専門課程の十一学科と日本語学科からなっており、専門的な知識・技術はもちろん、柔軟な創造力、豊かな人間性を併せ持った人材の

育成を目指しています。就職では、その業種・職種のエキスパートである教員の指導のもと、百社以上が加盟する「岡山科学技術専門学校企業後援会」によるバックアップもあり、100%就職できることを目指しています。

また本校は、国際化の一環として中国を始めアジアの国々を中心に本校工業専門課程へ進学する留学生を募集しています。留学生の募集に当たっては現地の高校、職



バックの写真と発表内容がうまく合っていました。



彼の発表はユーモアあふれた素晴らしい発表で観衆の心をつかみました。

業訓練学校、大学と提携し、教育交流として現地での日本語指導、職業訓練も行っています。特に昨年よりミャンマーにて現地職業訓練学校と提携し、自動車整備士の育成を開始しました。日本式の指導を取り入れ、ミャンマーでの整備士不足とレベルアップ、さらに日本に留学し日本の整備士不足という両国のニーズに応えることができるかと期待しています。

さて、岡山科学技術専門学校は、昨年十二月に中国大連市開発区にある得勝高校にて第4回日本語弁論大会を開催しました。今回のテーマは「私の夢」で、十一名の学生が発表しました。どの学生の発表も素晴らしく私は何度も彼

らの発表に感動しながら聞き入りました。

得勝高校は、大連市開発区にある大連市立の学校で、大連市の中心から車で一時間ほどのところにあります。十二月は、-5℃から-10℃と非常に低い気温ですが、建物の中は暖房しており、あまり寒く感じませんでした。雪は少なく、乾燥しています。当校は国際化の一環として以前から日本語の授業を行っています。しかし、残念ながら日中間系の悪化に伴い日本語科目をとる学生が減っているとのこと

と人の友好が優先され両校との関係、中日の関係が未永く続くことを願っている」と言われました。

日本語弁論大会は、平成二十三年より毎年違うテーマで開催しています。五分程度の時間で、課題のテーマに沿った内容であるか、聞き手に訴えるものがあるか、日本語が適切に使われているか、発音が明瞭で正しいかなどの審査基準で採点されます。またパワーポイントで写真、文字、図形そしてBGMを流すなど各自工夫を凝らした発表です。

発表者の中には近隣の中学校からエントリーした学生もいました。彼はその後得勝高校に進学、その後も毎年発表し今年卒業します。ですから彼は初回から全て参加しました。年々日本語が上達し、最後は、最優秀賞を得ることができました。

大会の運営は学生自身が行いま

す。司会役の学生二人が、中国語と日本語で大会の開催挨拶、進行説明、発表者の紹介をしています。二人の息のあった司会も見所です。

得勝高校からは、留学生が本校に進学したり、短期研修で来校するなどの交流を行っています。平成二十四年二月には教員・生徒ほか十名が来校し本校での交流、岡山市内の観光をし、また岡山市役所を訪れ、高谷岡山市長を表敬訪問しました。

これからも両校の関係が益々活発になるよう働きかけていきたいと思っています。

二〇一四年十二月発行の「悠久第四十五号」岡山県立岡山南高等学校の記事におきまして誤りがありました。正しくは左記の通りです。

○表紙の目録並びに六ページの表題
(誤)「国際経営学科」
(正)「国際経済科」

関係各位にご迷惑をお掛けしましたことをお詫びするとともに、ここに訂正させていただきます。
(編集部)



力のこもった発表を終え、全員で写真を取り閉会しました。

治とは関係ない、人

「夢」を実現できる43年の伝統校

旭川荘厚生専門学院

<旭川キャンパス>

児童福祉科
(保育コース・幼保コース)

第1看護科

〒703-8560 岡山市北区祇園866
電話 (086) 275-0145・FAX (086) 275-3283

<吉井川キャンパス>

介護福祉科

精神保健福祉科

〒704-8126 岡山市東区西大寺浜610
電話 (086) 944-6911・FAX (086) 944-6922

<http://asahigawasou.ac.jp/gakuin/>



岡山商科大学孔子学院

中国語講座

2014年度前期 計18回
(2014年4月3日～8月26日)

特訓コース

新HSK試験5級をめざす
月・水・金曜日 計90回

太極拳コース

毎週木曜日(14:00～15:00)
計15回

子供向けコース

毎週土曜日(11:00～12:00)
全15回

出張中国語講座

簡単な日常会話から本格ビジネス中国語まで
対応します。内容は相談に応じて調整いたします。

出張中国文化講座 (開講料無料)

岡山県内の小学校、中学校、高校及び公民館を
対象とした出前中国文化講座を開講いたします。

お問い合わせ／お申し込み 岡山商科大学孔子学院 〒700-8601 岡山市北区津島京町2丁目10-1
TEL 086-252-0642 (内線521) FAX 086-255-6947 <http://www.osu.ac.jp/koushi/>



学校法人 中国学園

中国学園大学

●現代生活学部人間栄養学科 ●子ども学部子ども学科 ●大学院 (現代生活学研究科)
子ども学研究科

中国短期大学

●総合生活学科 ●保育学科 ●英語コミュニケーション学科
●情報ビジネス学科 ●専攻科(介護福祉専攻)

〒701-0197 岡山市北区庭瀬83番地 TEL086-293-1100 FAX086-293-3993
<http://www.cjc.ac.jp/> E-mail t-bosyu@cjc.ac.jp

学校法人 加計学園

岡山理科大学附属中学校(中高一貫コース)

ひとりひとりの能力を最大限に引き出し、伸ばすとともに、自ら学び自ら考える人間を育てる。

- スーパー選抜クラス：難関国立大学、医学部等の難関大学への進学を目指します。
- 選抜クラス：国立大学・私立大学への進学を目指します。

〒700-0005 岡山市北区理大町1-1
岡山理科大学附属中学・高等学校 中高入試広報課
TEL (086) 256-8527 FAX (086) 256-8526

未来をつむぐチカラ。



KANKO

「尾崎商事株式会社」は、「菅公学生服株式会社」へ社名変更いたしました。

菅公学生服株式会社 岡山営業所

〒701-0202 岡山県岡山市南区山田2316-28
TEL 086(292)8255 FAX 086(292)8266

 (公財)全道高等学校体育連盟協議会
 (公財)全道高等学校文化連盟協議会
 (公財)日本中学校体育連盟協議会
 (公財)日本中学校体育連盟シンボルマーク付

カンコー学生服 検索 <http://kanko-gakuseifuku.co.jp/>

菅公学生服株式会社 お客様相談室 フリーコール 0120-712983 9:00~17:30/土・日・祝日除く。
※携帯電話、PHSからもご利用いただけます。

カンコー学生服は、子どもの健康と学業成就を願って学問の神様である菅原道真公(菅公=カンコー)にちなんで名付けられました。

160th
ANNIVERSARY



「よく生きる」 を考える。

株式会社ベネッセホールディングス <http://www.benesse-hd.co.jp/>

岡山本社 〒700-0807 岡山県岡山市北区南方3-7-17 東京本部 〒163-0416 新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング16F



Yayoi Kusama "Pumpkin" Photo: Shigeo Anzai

眼鏡医療技術専門学校 ワールドオブティカルカレッジ

今年も全員就職が内定しました！

天職が見つかる「学校説明会」



5月23日(土)
6月20日(土)
13:30~16:30

ご予約は 0120(88)8233へ

高校生も社会人の方も、是非私たちの学校を見に来て下さい

資料は無料配布 随時見学できます ◀ 本校独自の特待生制度 奨学金制度があります ▶ 高校卒業生コース (3年制) 短大卒業生コース (2年制)

〒703-8282岡山市中区平井6-6-11 <http://www.woc.ac.jp> E-mail woc@woc.ac.jp

中国語を話そう！

入門、初級、中級、上級、レベルに合わせて学びます。
見学歓迎！ご一報ください。

＜費用＞ 入学金…3,150円(消費税込)

☆継続者は免除☆

受講料…31,500円(消費税込)/全24回

教材費…実費(2,000円～3,000円程度)

＜申込方法＞ 申込書と、受講費用を事務局へご持参またはご送付下さい。
費用は前納にて一括納入を原則とします。

《問合せ先》

岡山中国語センター (岡山市日中友好協会内)

〒700-0902 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル2階 TEL (086)225-5068

E-mail oknittyu@yahoo.co.jp <http://www.oka-rizhongyouxie.jp/>

グループレッスン、個人レッスンの
ご相談にも応じます。
どうぞお気軽に
お問い合わせください。



おかげさまで25周年！

アジア・コミュニケーションズはあなたのツアーデスク！

- 中国東方航空で上海へ！上海経由で中国・世界各地へ！
- 大韓航空で韓国ソウルへ！仁川空港経由で中国各地へ！
- お得なパッケージツアー (上海・台北・大連・青島など)
- 特徴あるこだわりのツアー
中国、ミャンマー、ラオス、ベトナムなど
皆様のご要望に沿った旅行企画をいたします。
安心の添乗員同行ツアーです
- 日中教育交流のサポート
企画から旅行実施、添乗までサポートします。

○お気軽にお問合せ下さい



株式会社アジア・コミュニケーションズ

ASIA COM 観光庁長官登録旅行業第1816号 ©JATA正会員 IATA公認

岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル4F(〒700-0902)

TEL (086) 231-0334 FAX (086) 222-7732

<http://www.asicom.co.jp> Eメール info@asicom.co.jp



岡山県日中教育交流協議会

岡山県日中教育交流協議会 会報 『悠久』 第46号

発行：平成27年3月

発行者：岡山県日中教育交流協議会 編集委員会

〒700-0902 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル2階

TEL (086) 225-5083 FAX (086) 225-5041

印刷所：旭総合印刷株式会社